

泉小中学校
学校便り

地域とともにある学校



3つのよし

「自立(自分よし)」
「感謝・思いやり(相手よし)」
「協働・共生(みんなよし)」

文責：副校長

いずみん

朝の冷え込みも穏やかになってきました。校庭の桜の木の芽も少しピンク色に膨らみ始め、花壇のチューリップも芽を伸ばし、春を迎える準備をしていることを実感します。「冬来たりなば春遠からじ」。寒く厳しい冬の到来は暖かい春の訪れが目の前まで来ているということから、「今は不幸な状況であっても、じっと耐え忍んでいれば、いずれ幸せが巡ってくる」というたとえに使われます。

3年前の3月、いきなり全国の学校が一斉に休校になったコロナショック。先日のニュースでは、新型コロナウイルスもインフルエンザと同じ5類に分類されると報道されていました。感染者の増減はまだ予断を許さない状況ではありますが、日常の生活に戻りつつあることがうれしいですね。しかし、災害はいつ降りかかってくるか分からないもの。常に「最悪」を想定して準備をすることは大切です。

昨日は、氷川ダム水系の水道管の故障で、下岳地区から東陽方面が広く断水し、ご家庭でも不自由されたことだと思います。給食の提供もできなかったので、急遽災害非常食の「救給カレー」を準備していただきました。災害食は、万が一に備えて食べ慣れておくことも必要です。子供達の反応は、「おいしかった。」という声が多く聞かれ、ほっとしました。できるだけお世話にならないことを望みますが、これも一つの備えです。よい機会でした。



校内持久走大会《小学部》

1週間延期された小学部の校内持久走大会が2月1日(水)に実施されました。寒さも緩み、絶好のマラソン日和でした。多くの保護者の皆様にも応援していただき、いつも以上に張り切って走る子供達の姿が、見ていてとても感動しました。

講評の中で、西田教頭先生が、「今日の持久走大会、きつかったと思います。でも、そのきつかったことを我慢して走りきったことに価値があります。」と話されました。最近、きついことは避けたり、子供達が転ばないように先回りをしたりすることが多く、「きつい」体験をすることが少なくなってきました。そんな中で、2ヶ月にわたり、寒さにも耐え、きつさにも耐え、一生懸命練習し、日々タイムの向上を目指して取り組んできた子供達、とても立派だと思います。

泉小中学校は、小中学生共に朝のランニングを続けています。こうした地道な取組を継続できる忍耐強さもとても大切だと思いました。ご指導いただく先生達にも感謝です。



生徒会 始動!

次年度に向けた生徒会役員改選が行われました。今年、委員会の組織改編や規約改正などがあったため、例年に比べ少し遅めの選挙でした。2月3日(金)4時間目に立ち会い演説を行い、投票。会長、副会長、書記に立候補した生徒が一人ずつだったため、信任投票という形で行われました。



結果は、見事3人とも信任され、新たな執行部がスタート。会長に立候補した2年の平本悠夏さんは、会長になれたらやりたいこととして、次の2つを発表してくれました。

- ①みなさんが積極的に発言できる学校にしたい。
- ②小中一貫校のよさを生かして、小中学校の交流を増やしていきたい。

どちらも、本校の「課題」や「もっと伸ばしていきたいところ」をしっかりと捉えていると感心しました。これから生徒会リーダー研などを経て、具体的な取組内容や方法を検討していくことと思います。泉小中学校が「楽しい学校になる」ように、そして、「自信に溢れる生徒達でいっぱいになる」ように、生徒会活動を盛り上げていってほしいと思います。今後の取組を期待しています。